

風土記の丘の花だより³⁰³

今、そしてこれから見られる植物(2026年1月10日)

新年明けましておめでとうございます。(と言っても、今日はもう十日戎ですね)

今年も花だよりをご愛読の程よろしくお願い申し上げます。ところで今年の正月は大変寒かったですね。私は初詣で霰(あられ)に降られました。皆様はどう過ごされたでしょうか。



例年は年末からチラホラ咲き始めるロウバイが、今年は年が明けてから咲きました。下のトイレの近くや、旧小早川家住宅などで見られます。ロウバイは蠟細工(ろうざいく)のような花もさることながら、香りが良いことが何よりの魅力ですね。漢字では「蠟梅」と書きますが、ご存じのウメとは全く関係ない種類のロウバイ科の木です。江戸時代に中国から渡来し、庭木などとして親しまれてきました。大駐車場の近くには、花の中が赤くないソシンロウバイが植えられています。それもそろそろ咲いていることでしょう。



同じく香りの良い花、スイセンも少しずつ咲き始めています。花の中が黄色いお馴染みのスイセンや、園芸品種の中まで真っ白な花も咲いています。なんという品種名なのでしょう？ 風土記の丘にはいろいろな方が植えてくださった様々なスイセンの花を見ることができます。これからが楽しみです。



葉が落ちてしまった木に小さなイチジクみたいな実が付いています。これはイヌビワの実です。イチジクもイヌビワも同じクワ科の木ですから、似ているのも頷けます。イヌビワには雌雄があって、実が実るのは、とても小さなハチのおかげです。興味のある方はスマホか何かで調べていただくといいのですが、一度読んだだけでは分からないほど複雑な仕組みです。植物の中には、このイヌビワのように、昆虫との関わりが強いものが少なくありません。植物も昆虫もどちらも大切にしたいですね。



落ち葉に紛れてよく分からないですが、緑色のシダが二株写っています。オオハナワラビです。ちょっと前に紹介したフユノハナワラビと姿も名前もそっくりさんです。別にその違いが分かって、どうということはありませんが、もし興味があれば、葉の鋸歯を見比べてください。オオの方が尖っているのが分かります。シダは華やかさにかけるので、立ち止まって見入る人も少ないと思います。でも、たまには地味なシダも眺めてやってください。

松下